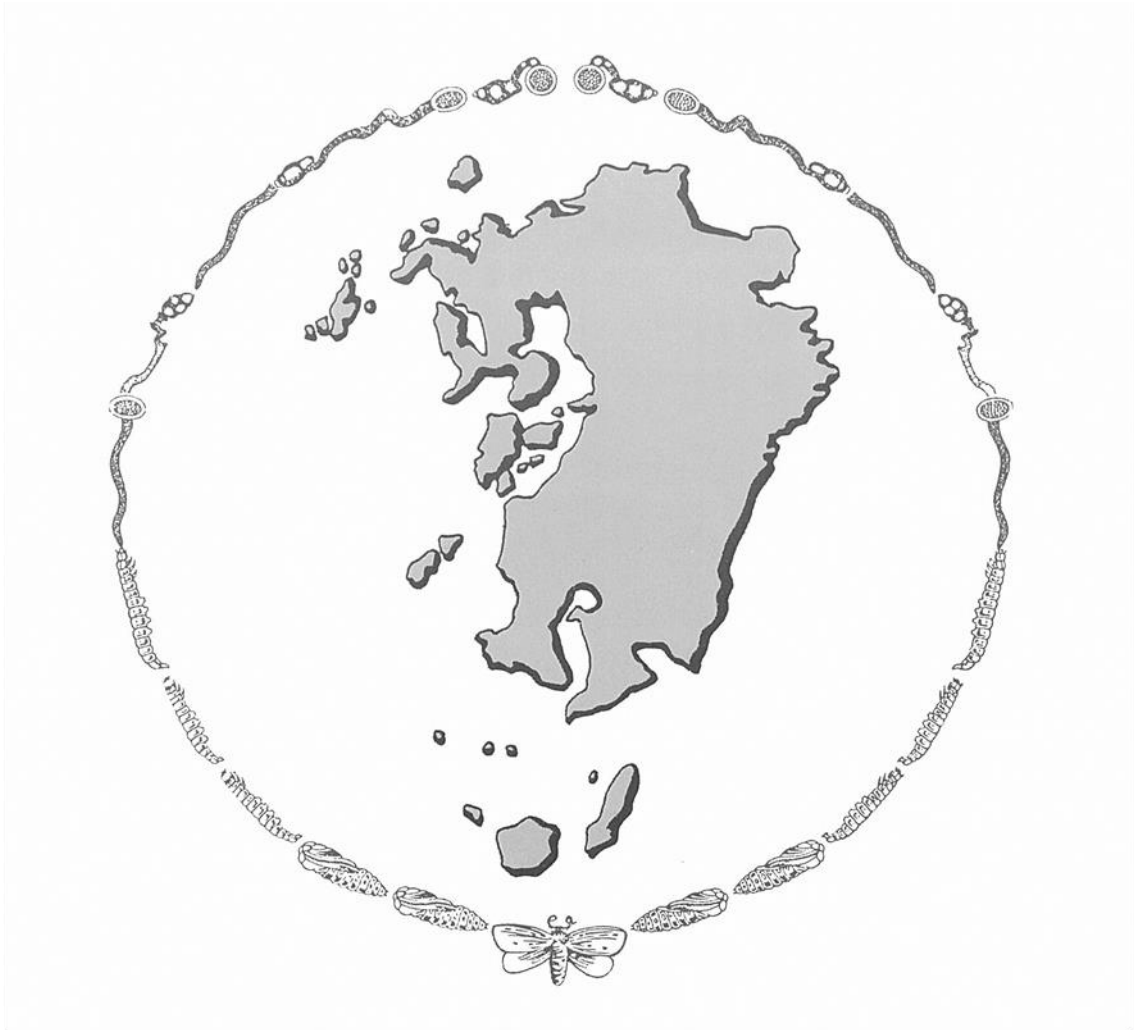


九 防 協 年 報 2 0 1 9

2 0 1 9 年 度 (第 4 9 年 次)



2 0 2 0 年 3 月

一般社団法人 九州病虫害防除推進協議会

序

一般社団法人九州病虫害防除推進協議会（九防協）は昭和45年（1970年）に創立され、九州本土7県に所在する国の機関、農研機構、県の農業関係試験研究機関、普及指導機関（専門技術指導員）と農薬製造業者、JAなどの賛助会員の皆様の多大なるご支援、ご協力によって生産者が活用できる的確で効率的・効果的な病虫害の新防除技術の開発と普及を促進し、九州地域における農産物の安定生産に寄与することを目的とした活動を行っています。

本年報は2018年度版までは冊子として印刷し、関係者の皆様に配布しておりましたが、2019年の運営会議で「2019年度版より年報は紙媒体を廃止して電子化し、ホームページに掲載」との方針が決められました。紙の媒体に慣れた皆様には多少違和感があるかも知れませんが、何卒ご了承のほど、よろしくお願いたします。

ここ数年、九州地域では毎年のように大地震や大きな気象災害が発生していますが、昨年も8月末の九州北部豪雨や9月下旬の台風17号による甚大な被害があり、また、トビイロウンカの大発生（注意報が九州7県から延べ10件、警報も佐賀県と鹿児島県を除く5県から発表）の影響もあり、普通期水稲の作況指数は佐賀県の58から長崎県の94まで、いずれも「不良」となっていました。ただ、折よく、ウンカ類に効果が高いとされている「ピラキサルト（一般名：トリフルメゾピリム）」が配合された水稲用箱施薬剤の連絡試験が昨年度から始まっており、昨年の大発生条件下でも高い効果が示されたことは来年以降の防除対策に向けての朗報といえるのではないのでしょうか。

年が明けてからの最大の話題はなんといっても新型コロナウイルス感染症（正式名称：COVID-19）につきると思われます。当初は遠い地域での出来事といった雰囲気、本会の行事も2月21日の果樹設計会議までは従来の形式で実施しましたが、福岡市で2月20日に九州での初感染者が確認されて以降、九州他県でも感染者が見つかるにつれ3月5～6日の普通作・野菜作（後期）設計会議の開催が危ぶまれる事態になりました。当初、メール会議形式での案も検討しましたが、（現況では甚だ不適切な表現かも知れませんが）“口角泡と飛ばすがごとく”参加者で激論を戦わせることで生産者の皆さんに即活用していただける技術確立を目指す本会としてはマスク着用、消毒用アルコールの準備等の対策を講じたうえで、2日間の日程を1日間に短縮し、懇談会は中止とすることでなんとか開催にこぎつけました。ただ、新年度に入ると業務監査、運営委員会、運営会議等、重要な会議が続きますし、来年度は創立50周年という節目の年を迎えることとなります。このため、5月14日に予定している創立50周年記念講話会ではご来賓の方々のご祝辞や記念講話会での講演について講師の方々にご快諾をいただくなど、早くから準備してきたところですので、終息とまではいかないにせよ、なんとか早急に収束することを心から願うばかりです。

来年度に創立50周年を迎えるに当たり、職員一同、心も新たにさらなる本会の事業発展に努めて参りたいと考えておりますので、賛助会員、関係機関の皆様には今後とも倍旧のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2020年3月

一般社団法人 九州病虫害防除推進協議会

会 長 山 中 正 博